

土佐希望の家通信

<発行>重症心身障害児者施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133
http://www.tosakibou.jp Email:info@tosakibou.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 神田 祐子

希望の家祭



今年の希望の家祭は、分校を始め保護者や各病棟から歌やダンスの発表もあり、盛り上げるステージとなりました。また、三味線とギターの演奏を爪糸(すまいと)さん、ベリダンスをeskibell(エスキベル)さんに披露していただきました。喫茶は「祭り家」という店名で屋台をイメージしており大変賑わっていました。また今年も沢山のフリーマーケット出店やボランティアの皆様にご協力いただきました。皆さん、どうもありがとうございました。



ちよひのこ話

ありがとうございます。
今後ともよろしく願います

【寄付金・寄付物品】
北村忠司様、安藝菖子様、小林豊様、吉本美代子様、久富久貴様、岡本清正様、井上靖男様、岡村辰雄様、社会福祉法人土佐香美福祉会様、前野幸江様、藤岡美智子様

「厚意

私の仕事 (23)



作業療法士
安並慈摩子



作業療法とはリハビリを行う職種の一つです。リハビリと聞くと多くの方が身体を動かしたり、歩行練習をするなど日常生活において行う運動の訓練をイメージされると思いますが、作業療法は名前に作業と付くように作業を通してリハビリを実施します。その作業には編物や絵画、畑作業やビーズなど様々なものがあります。また、作業療法の特徴の一つとして精神面へのアプローチも挙げられます。

土佐希望の家の利用者様はこが生活の場となります。そのため、週に一回の僅かな時間ではありますが、訓練を楽しみとして感じてもらえるよう配慮しています。

また、訓練時間に作成した作品を友人(プレゼント)したり、施設の行事である希望の家祭で販売するなど社会参加のきっかけ作りにも活かされています。自分が作成した作品が第三者の手に渡って喜ぶ姿をみるのが、その後の訓練実施の意欲向上にも反映されています。

今後も利用者様が希望される作業を活かした訓練を提供していけるよう頑張りたいと思いますのでよろしく願います。

HAPPY LIFE 家族の窓 No.25 岡崎健木様 在宅



岡崎 健太

みなさん、ぼくのこと知ってるかなあ？「知らん人は知らんし、知つちゆう人は知つちゆうろっねえ」と、お母さんに横からツッコミを入れられる。ぼくの家族はいつもこんな感じのやりとりだけど、今日はぼくを知ってもらおうチャンスだから続けようと思う。

ぼくは、現在23才。3度の食事とピンクが大好きだ。やまももに通い始めて6年目になるけど、入院したら体調を崩したりで、家族には心配をかけてばかりいる。最近やっと体調が良くなって体重も少しずつ増えてきた。でも、まだまだやせているから、周りの人に「私のおにくを分けちゃお」と言われて苦笑いしている。ぼくは元々食べるのが大好きだったので、手術をしてからは飲み込みが苦手になってしまった。それでも、やっぱり口をモグモグさせて味わうのは最高だ。『肉食系男子』に変身し『肉好き丸』というしこ名を持つっている。嫌いな物はないつもりだったのに、この間納豆が食べられなかった。だってあんなネバネバした臭い物は初めてだったからじゃない。

そして、一番好きな物は、ピンクだ。「えー、男の子なのに？」と言われても止められない。当然ほとんどの持ち物はピンクだからだ。食器用のお盆にバギー、ソックス、手袋、マフラー、上着、上履き、バッグ、髪止め、みんなピンクだ。お母さんも家ではピンクのエプロンやTシャツを恥ずかしいと言いつつ着ている。こんなにピンクが好きになつたのは、桃太郎の話のせいだと思う。岡崎家の桃太郎は「昔々ある所にいちちゃんとあちやんが住んでいました。——中略——すると桃の中

ハツスル神社

結果報告

8月30日、うぐみさんが幸子さんの出来あがつた歌を持って来てくれました。幸子さんとテーマメンバーもドッキドキ。シーンとなった会議室にゆーっくりと曲が流れ会議室が清々しい雰囲気。曲が終わるとそこに居た皆それぞれが何とも言えない程の感動に包まれていました。曲は幸子さんの詩を生かし、詩は曲を盛り上げるとしても素敵なものに仕上がっています。一日も早く皆さんの耳に届きますように。

そして、第2段ハツスル神社の抽選会が10月13日希望の家祭で行われました。

当選者とその願いは：

1病棟の高橋利佳さんは「谷脇さん(元職員)ちに泊まりに行きたい」、学校生の中村豪仁さんは「たくさんあそんで」、3病棟の田中政清さんは「電動車いすの運転を頑張りたい」、そして最後の1つ、3病棟の下司正幸さんは「武久京子さん(あざみ課長)と結婚したい」、発表直後、会場に一瞬間がありました。

この夢をテーマ別研修メンバーでしっかり取り組んでいきたいと思います。またまた応援、協力をお願いします。
1病棟 山下薫

通園秋の遠足



11月6日、生活介護事業所「やまもも」は秋の遠足に行ってきました。「やまもも」ご利用の方々の交流を深め、楽しい一日を過ごすことを目的とし、毎年春と秋の2回行っております。今回は「高知城と周辺散策」ということで利用者様13名、ご家族15名、職員17名、総勢45名の遠足となりました。

集合、休憩場所として高知城ホールをお借りしました。集合後、日程の説明をした後「高知城クイズ」としてお城に関するクイズを行いました。3回行いそれぞれの優勝者には素敵なプレゼントが渡されました。ちなみに優勝者は、森下稔様、岡林永恵様、徳久りの様でした。

食事を済ませた後、一行(45名)は高知城に移動。板垣退助の銅像前、追手門前で記念撮影をしました。それから自由行動ということでひろめ市場、大橋通り、帯屋町と散策、買い物を楽しみました。

ポカポカと暖かい小春日和の一日、利用者様を始めそれぞれに交流を深めることが出来ました。ひろめ市場ではお目当ての食品を買ったり楽しい一日を過ごすことが出来ました。

通園課長 川崎博之

北海道旅行

北海道に行きたいという上村立雄様の希望を叶えるため職員2名の付添ボランティアのもと9月28〜30日北海道札幌へ旅行に行ってきました。

旅行前日の北海道の天気予報では、氷点下だったので職員が寒いかも?とジャンパーなど準備して防寒万全な格好のもと出発しました。ホテルに到着後、荷物を置いてさっそく夜のすすきのへ出かけました。上村さんは数年前に一度訪れた凄く楽しい思い出のお店に行きたかったのですが、すでに営業を終了されていて行くことができません。違うお店で楽しい夜を過ごしました。その後遅くになりましたが夕食を近くの居酒屋で、上村さんは、さんまの押し寿司や唐揚げ、サラダなどを食べました。

2日目は小樽観光。ここでハピニングが、しっかりと準備してきたつもりがカメラを忘れていたのに気が付き、コンビニでインスタントカメラを購入しようと、店員にカメラを置いていたのか聞くと珍しそうに出してくれました。今の時代インスタントカメラを使う人は少ないのか、小樽で写真を撮っている周りの人が珍しそうにみていました。石畳の坂を覗き進み何とも言えない雰囲気の小樽の街を観て感動しました。小樽観光を終えホテルで少し休み、この日も夜のすすきのへ出かけました。上村さんにご一緒したか聞くと前日のお店に行きたいとのこと2日目も同じ店に行きました。普段見たことのない上村さんの笑顔に職員も来てよかったですと感じました。夕食は本人の希望でラーメンを食事に掛けました。やっぱり本場札幌のラーメンは大変美味しかったです。

最終日はほとんど移動です。「北海道は遠いね」と来年は大阪に行くかと羽田空港で言っていました。羽田を後にして無事に高知龍馬空港へ到着。上村さんお疲れでしたが、楽しい北海道の旅となりました。

3病棟 田中 勝

栃煌山関



9月30日午後、大相撲で活躍されている小結 栃煌山関が来園。訓練室などにおいて利用者さんたちと交流されました。

栃煌山関の187cm、158kgの体格に皆ビックリしていました。栃煌山関は、その大きな手で皆さん一人一人と握手をしてくれて、一緒に写真を撮ってもらえる等、とても優しく対応していただき利用者さんもお喜びしておられました。

来場所もみんなで栃煌山関を応援しましたよ。
3病棟 小崎誠也

リフト車を寄贈いただきました

高知県共同募金会よりリフト車を一台寄贈していただきました。この車両は、通園の送迎や外出時に使用しています。ありがとうございます。



療育キャンプ

10月26〜27日、JKAの助成事業による療育キャンプが行われました。香川県の遊園地「レオマワールド」ホテル「オマの森」に泊るという内容でした。参加者は家族、スタッフを合わせた総勢34名。

医療スタッフとして国立病院機構高知病院から小児科の武市先生が参加してください、療育についての話をさせていただきました。

希望の家からは小谷部長を始め看護、介護のスタッフ、また希望の家職員OB、OG、守る会会員や保護者のボランティアとしての参加もあり、行き届いた気配りの中安心して過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。守る会 副会長 岡林品江



高知農業高校

10月27日(日)高知農業高校より、おやさい戦士ベジタブルファーム(通称ベジファム)とブラスバンドの皆さんが総勢20名以上で来園してくれました。

生徒の司会進行のもと、まずはブラスバンドの演奏から始まりました。そして、アニメ「アンパンマン」のキャラクター達も登場し、笑いもあり心温まる寸劇を観ました。また、綺麗な衣装を身にまとった5人組のベジファムも加わり、歌とダンスで楽しませてくれました。野菜をテーマにしたクイズもあり、皆で答えました。アンコールでは「手のひらを太陽に」を皆で合唱。最後にベジファムやアンパンマン達と記念撮影を行い、利用者様は大喜びでした。また来てくださいね。ありがとうございました。

1病棟 川島敬三



ベジタブルファームと記念撮影☆

土佐希望の家周辺の歴史

施設長 長博雪

土佐神社

今年の夏は7月中旬よりずっと30度を越える猛暑が続き、大変でした。雨も少なく鏡ダムなどの取水制限などが話題になりました。そんな8月下旬の暑い日。私は行きつけのクリーニング屋さん。何となく午後から曇ってきて、パラパラと雨が。店のおばさんとお天気の話。「久しぶりの雨だねえ...」。するとおばさんは「今日は、しなね様の日だから雨が降るのはいつものこと。参道を清める程度の雨だよ...」このことを土佐弁で話されました。8月24日、土佐神社のお祭り(しなね様の日)でした。成程、この高知は今も「神居ます国」だなあとの実感。夏の暑さも、しなね様が来るとおさまるとタクシーの運転士さんからも聞いていました。

紀貫之の「土佐日記」にも土佐神社の事が出てきます。承平4年12月といいますが、今から千年余り前、国司としての5年の任期を終えて、京都へ帰ることとなり到着までの55日間の事を著



礫石



礫石のいわれ

したのが有名な土佐日記です。当時の旅は今の旅とは違い、安全なものとは言えないものでした。海路を行けば、天候の異変により遭難の恐れもあるし、海賊も待ち受けていることもあったでしょう。当時の土佐神社に参拝し、旅路の平穩を祈ったと思われます。

当時は「都佐坐神社」といいます(じんじや)と称されていたとのこと。私は、本殿参拝後、道順表示に従って本殿の裏手へ「礫石」と表示されている巨石があり、注連縄が巡らされています。説明板があり、「当初、本宮は高岡郡浦の内になつたが、此処は適切でない。石を投げられ、石が落下した場所に宮を建てよとの神意。この地に落下し、此処に宮を建立した」との云われが記載してあります。説明板にも学問的には、この辺りには存在しない岩であり「転石」とのこと。「転石」とは、現位置とは異なる場所(河川など)により運搬された巨大な礫のこと。災害跡等にはいたるところ転石が存在する。何とも不思議な感じがしました。私は勝手に、太古の大津波の記憶を想像しました。皆さんも今度、土佐神社にゆかれたら、ご覧になったら如何でしょう。